

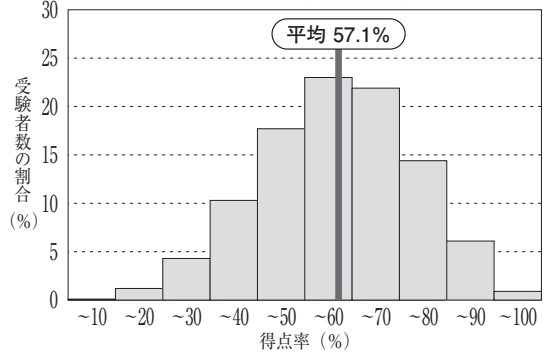
生 物

基本的な知識を定着させよう。

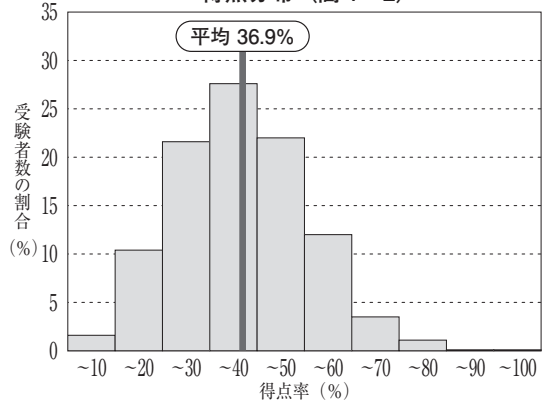
I. 全体講評

今回の全国統一高校生テスト生物の受験学年の平均点は57.1点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生命現象と物質、第2問は生殖と発生、第3問は生物の環境応答、第4問は生物と環境、第5問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第6問と第7問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低かった大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。教科書やテキストなどを見直し、重要な用語が身についているか確認しておきましょう。

得点分布 (受験学年)



得点分布 (高1・2)



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問	第7問
高1	35.1点	36.2%	44.4%	31.6%	38.6%	29.9%	25.2%	27.3%
高2	37.0点	39.9%	46.8%	34.4%	37.0%	30.6%	30.9%	30.6%
受験学年	57.1点	61.9%	74.5%	60.8%	51.9%	41.2%	50.5%	45.3%
全員	52.1点	56.4%	67.6%	54.2%	48.3%	38.6%	47.5%	40.4%

※正答率は受験学年のものとする

第1問 生命現象と物質

遺伝子組換えについて理解しておこう。

Aは酵素に関する問題で、問1の正答率は77.4%であった。Bは遺伝子組換えに関する問題で、問4の正答率は53.9%であった。

問5で出題した制限酵素に関する問題はよく出

題されるものなので、正答できなかった受験者は復習しておこう。

第2問 生殖と発生

発生に関する知識を整理しておこう。

AはABCモデルに関する問題で、Bはニワトリの肢発生に関する実験考察問題であった。問6の

正答率は78.4%とよく出来ていた。

ABCモデルについて整理しておこう。実験考察問題では、与えられている情報を整理する力が得点に結びつく。過去問などを利用して慣れておこう。

第3問 生物の環境応答

植物の花芽形成と光周性について理解しよう。

Aはニューロンの構造と活動電位に関する問題で、いずれも基本的な知識問題であった。Bは植物の光周性に関する問題だが、実験考察問題同様、資料を読み取る力を問う出題であった。問4の正答率は91.8%とよく出来ていた。

今回の出題にはないが、植物の光周性に関しては、主な長日植物・短日植物・中性植物の例を覚えておこう。

第4問 生物と環境

生態系における物質生産について整理しておこう。

Aは群れに関する問題で、問1は異種個体群間の相互作用に関する知識問題、問2は繁殖戦略に関する考察問題であった。問1の正答率は85.5%で、個体群間の相互作用に関する知識が定着している受験生が多いことがうかがえる。Bは物質生産に関する知識および簡単な計算問題であった。

生態系における物質生産に関する用語を整理し、計算問題にも対応できるようにしておこう。

第5問 生物の進化と系統

生物の系統を整理して覚えよう。

Aは地質時代に関する問題で、いずれも知識問題であった。この分野は学習が遅れがちな分野なので、身につけていない知識がないか確認しておこう。Bは分子系統樹に関する問題で、問5・6の計算問題の正答率はそれぞれ22.5%、29.4%であった。

与えられた資料から分子系統樹を作成する過程を身につけておこう。

第6問 眼の形成と遺伝子

眼の形成に関する知識を整理しよう。

問1は基本的な知識問題、問2は実験の読み取り問題で、正答率は53.8%であった。問3はショ

ウジョウバエに関する総合的な知識を問う問題であった。複数の単元にまたがる知識を要する問題は、苦手分野があると解きにくくなるので、早めに対策しておこう。

第7問 植物の系統分類

系統分類に関する知識を整理しよう。

光合成および植物の系統分類に関する知識問題であった。問1の正答率は29.7%であった。得点できなかった受験者は光合成の過程について復習しておこう。植物だけでなく、動物の系統分類についてもまとめておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。

このような問題に対しては、問題文を読みこなし、データを解析して、正しい解答を導き出す能力が必要になる。知識があやふやでは、このような問題に対応することはできない。「生物」の内容は量が多く、新しい知見や高度な内容も含まれている。これから本番の試験までの限られた時間で、すべての分野において教科書の知識を正確に身につけるためには、計画的に生物の学習を進めていく必要がある。過去問演習や模試のあとは必ず復習をし、解説をよく読みながら正しい知識の定着をはかるよう努力しよう。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

教科書に記載されている内容は、細かな知識まで幅広く問われる。したがって知識に偏りがあると、高得点は望めない。今のうちから、教科書の知識をしっかりと身につけること、苦手分野をつくらないことを心がけて、少しずつ学習を進めていってほしい。